

令和5年度 第3回 国立大学法人三重大学経営協議会 議事概要

日時 令和5年6月16日(金) 16時30分～17時40分
場所 事務局2階 大会議室
出席者 伊藤(正)学長(議長)
伊藤(歳)、大友、河上、竹林、辻、二井、丸山、横山 各学外委員
鶴原、酒井、吉岡、木下、西岡、田中、池田 各学内委員
欠席者 末松、廣田 各学外委員
陪席者 服部、小川 各監事
企画総務部長
企画総務部総務チーム

◎新規委員の紹介

会議冒頭に、学長から新規委員の紹介があった。

◎前回議事概要の確認

学長から、事前に照会した令和5年度第1回経営協議会及び第2回経営協議会(臨時・書面審議)議事概要(案)について、資料のとおり記録に留めたい旨の報告があり、了承された。

I. 審議事項

1. 令和4年度決算報告について

木下理事から、「資料:審-1」に基づき、国立大学法人法第35条において準用する独立行政法人通則法第38条に則り文部科学大臣に提出する財務諸表、決算報告書、事業報告書及び監査報告書について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

<主な意見>

- 経常収益が前年度に比べてプラスになったことについて、診療稼働の増加による附属病院収益の増加が要因の一つと説明があったが、いわゆる「コロナ特需」は関係があったのか。
→ コロナ病棟は昨年8月より設けておらず、また受入れも重症又はかかりつけの患者に限定することで、一般患者の受入れと両立させてきた。新型コロナ関係の補助金による収益もあるが、令和3年度に比べると減少している。
- 附属病院を含む場合は、含まない場合に比べて業務費における人件費比率が高いが、何か理由があるのか。
→ 他大学と比較すると、病院以外の部分の人件費が高く、その割には教育経費比率、研究経費比率が低い。人件費を抑えて、教育及び研究経費比率を上げるというのも一つの方向性かもしれない。附属病院については、看護師が集まらない中、少ない人数で対応していただいている。
- 三重大学に限ったことではないが、日本は大学教員や病院スタッフの人件費が安すぎるので、大学の魅力をあげるためにも、徐々に改善してほしい。

- 人件費比率が高いことを悪とするかどうかである。平均並みにすることを目標にするという考え方もあるが、人に投資しているという考え方もある。全体のバランスを見ることも必要だが、人件費比率が高いことを一つの特色として捉えることがあってもよいのではないか。

2. 令和6年度概算要求について

木下理事から、「資料：審－2」に基づき、令和6年度概算要求に関する本学の方針について、新規に要求する教育研究組織改革分を中心に説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

<主な意見>

- 研究・社会連携統括オフィスの構想については、選択と集中に踏み出すという意思が感じられてよいと思う。
 - これまで本学では、各学部等で様々な研究に取り組んできたが、大学として研究マネジメントを行う体制が十分ではなかった。今回このような組織を整備することで、今まで培ってきた本学の研究力をより高めていくという趣旨である。
- 神事・産業用Hemp総合研究拠点の試みについて、一番の目的は何か。
 - 産業用大麻は様々な分野に活用できる植物であり、利用価値が高い。本学では先駆的に大麻研究を推進しており、日本のみならず世界的な産業用大麻の研究拠点となることを目指している。
- 大麻の研究を進める際には、生産方法や採算性等にも視野を広げて取り組んでいただくとよいと思う。

3. その他

なし

II. 報告事項

1. 令和4年度就職状況調査の報告について

鶴原理事から、「資料：報－1」に基づき、令和4年度卒業生の進路状況について、県内就職率や産業別の就職状況と、その分析について報告があった。

<主な意見>

- 学生にとっては、三重大学に入学してよい会社に就職できるのが一番魅力的である。三重県出身の学生数や県内就職率には、それほどこだわる必要はないのではないか。
 - 本学としては、人口流出を防ぐという県の政策に協力したいと考えている。三重県出身者は三重県に留まりやすいという傾向があるため、指標として、三重県出身の学生数や県内就職率は重要だと捉えている。
- 過疎地域においては、奨学金制度を整えるなどして、地域に戻ってきてもらうための取り組みを進めている。三重大学が県内就職率を意識してくれているのは非常にありがたい。

- 県外から来た学生が、三重大学で学ぶ中で三重県に魅力を感じ、三重県内に就職するということもあると思う。
- 三重県出身者を三重県に留め置くことも大切だが、県外の学生からも選ばれる大学になることや、学生に世界を経験してもらうことも重要である。
- 看護や教育のように地元志向が強い学部等もあれば、例えば先ほどの産業用大麻の研究のような特色ある研究に魅力を感じて、県外から生物資源学部に学生が来ることもある。県外から学生を集める力は大いにあっていいものだと思う。学部ごとに丁寧に考えることが必要。
- 就職状況調査の結果は、これまでの大学の方向性や取り組みの結果とリンクしている、努力の結果の数値であると言えるか。
- 以前は、県内就職率を高めようと三重創生ファンタジスタ資格などの取り組みを強化したが、ほとんど増えなかった。せっかく三重大学に来てもらったので、三重県のよさを知ってもらいたいという気持ちはあるが、積極的には誘導していないし、なかなか操作できるものでもないと考えている。

2. 三重大学振興基金について

木下理事から、「資料：報－2」に基づき、本学卒業生より高額のご寄附をいただいたこと、またその用途については、寄附者のご意向を踏まえた上で、計画を策定中である旨の報告があった。

3. その他

(1) 令和5年度国立大学法人ガバナンス・コードについて

木下理事から、「資料：報－3」に基づき、令和5年度ガバナンス・コードにかかる本学の実施状況に対して、意見照会を行う予定であるとの連絡があった。

(2) 次回開催について

令和5年9月15日（金）13時30分～

Ⅲ. 意見交換

1. 三重大学の取り組みについて（年度計画、意欲的な評価指標等）

学長から「資料：意－1」に基づき、意欲的な評価指標や、三重大学ビジョン2030及び中期目標実現に向けた資金獲得戦略等について説明があった後、種々意見交換を行った。

<主な意見>

- 意欲的な評価指標(案)に挙げられている短期留学は、どのようなものを想定しているのか。

- 世界に飛び出して、学業達成やキャリア形成のための活動にチャレンジする学生を支援するもので、大学が費用を出す予定である。学生自身が、学業における課題を解決するため又は将来取り組みたいことに関する留学計画を立てるため、留学先や留学期間はそれぞれ異なる。昨年度採用された学生には出発前と後にプレゼンテーションをしてもらったが、ものの見方が変わったと話をしていた。
- そのような内容であれば、短期留学というよりも、海外チャレンジやグローバルチャレンジ等の別の言葉の方が合うように思われる。自ら課題を見つけて、それを解決するという趣旨は非常に魅力的である。
 - 環境・SDGs教育（科学的地域環境人材育成事業）の必修科目化は、他大学にない取り組みで目玉になるのではないか。

2. その他
なし

以上